

議 事 録

1 会議名	第3回美濃加茂市定住自立圏共生ビジョン懇談会
2 開催日時	平成21年8月21日（金）15時から17時
3 出席者名	委員：山田實紘委員、鈴木登委員、則竹邦光委員、市橋達委員、青柳芳男委員、井上正秋委員、大野寧彦委員、洞口勝則（久門圭子委員代理）、高井正文委員、小笠原伸委員、佐野綾目委員、小倉郁乃委員、渡辺厚委員 アドバイザー：細川昌彦 以上敬称略 市側：渡辺市長、宮口誠経営企画部長 行政経営課（事務局）総員3名
4 議題	アクションプラン検討ワーキンググループ会議の検討結果を踏まえた今後の望ましい圏域の姿など
5 審議結果の概要	<ul style="list-style-type: none">・ アクションプラン検討ワーキンググループで検討したアイデアの位置づけや協定締結までの手順等について説明を行った。・ 本圏域が生き残るために目指すべき方向や取り組むべき項目等について、各委員から意見を伺った。
6 審議の内容	<p>別添次第及び資料に基づき議事を進行した。以下に要点を記す。</p> <p>開 会 (省略)</p> <p>1 市長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none">・ 本日は、東海地域での美濃加茂市の生き残りということも含めて、活発なご意見をいただきたい。 <p>2 美濃加茂市・坂祝町定住自立圏構想アクションプラン検討WG会議における検討状況について (事務局が資料1に基づき説明)</p> <p>3 定住自立圏形成協定について (事務局が資料2に基づき説明)</p> <p>4 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none">・ ふるさとに帰ることを前提に上京していた時代とは逆に、最近では都市に残った方がよいという風潮があり、地方がどんどん衰退している。・ この懇談会では、豊かで住みやすい美濃加茂市をつくるために、中部圏を踏まえた上で、いかに生き残りを図るかという、大きなテーマについて話を聞きたい。 <p>山田座長</p>

鈴木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 美濃加茂の第1の大きな問題は、学生等を雇用する会社が充分にないことであると思う。 ・ 今の財政状況では、ワーキンググループで検討したアイデア全てを実現することはできないため、知恵を使ったまちづくりが必要である。 ・ 企業を誘致して雇用機会をつくるのは経済状況からみて無理であるし、地産地消といっても、人口5万人弱の規模ではマーケットとして成り立たないため、マーケットとして名古屋を意識せざるを得ない。 ・ まちづくりの方向性としては、「安心・安全」を目標にした住宅地を目指すのがよいのではないか。 ・ 具体的には、私が経営している自動車学校のマイクロバスを利用して、美濃加茂市と坂祝町内の福祉施設の送迎を行うなどすれば、二重行政をなくして近隣の町と結びつくことができるのではないか。
山田座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間と連携した交通手段はおもしろい案であるが、官民一体には、まだ高い塀がある。 ・ 雇用がないとベッドタウンでしか生き残れないだろう。

小倉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワーキンググループで検討したアイデア全てが実現すればすばらしいが、テーマが多過ぎるため、絞らないと実現しないだろう。 ・ 坂祝町の福祉バスは乗客が多いが、美濃加茂市の「あい愛バス（コミュニティバス）」は空席が目立つということをよく耳にする。坂祝町の福祉バスは無料であるため、利用者が多いとのことである。 ・ 高齢化や環境面、交通安全面を考えると、鈴木委員の提案した送迎バスや「あい愛バス」、坂祝町の福祉バスなど、今あるものを最大限に活かして充実させるべきだと思う。
佐野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティバスは、免許を持つ人には必要ないが、免許を持たない人にとっては大事である。 ・ 三和や伊深の人は太田に用事があるが、その反対に用事がないのが現状である。太田・古井地域の人がコミュニティバスに乗って、三和・伊深地域にやってくる、現状を見てくれるという使い方であれば大賛成である。
青柳委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「あい愛バス」が通ってから、我々の工場の見学者が増えた。 ・ 学校から工場や体験学習の場などに直接行けると、子どもの教育という面で使えるのではないか。
洞口委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年の4月から昭和村も「あい愛バス」の路線に入り、助かっている。 ・ 病院に行くお年寄りなどにとって、「あい愛バス」は大変重要であると思う。

山田座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ バスストップだけでなく、止まりたいところに止まるバスにするのも1つの方向だと思う。 ・ NPOなどのボランティアで行えば、タイムテーブルをつくらないといけない等という国土交通省の決まりに縛られることがないのではないか。
佐野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森林に関する問題を考える参考資料として、小冊子「クマともりとひと」という資料を持ってきた。 ・ 美濃加茂北部ではイノシシ・サル対策に大変困っている。 ・ 休耕田がたくさんあり、山も荒れている。山に食べるものがないため、イノシシが出てきて作物を食べてしまう。 ・ ビジョンがいろいろ出ているが、山については誰もふれていない。 ・ 美濃加茂が住みよくなるか、ならないかは森林に原因があるのではないか。

井上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水田はダムの役割を果たしていることなどから、耕作放棄地は大変な問題であるが、つくれといっても売るところがなければいけない。 ・ 売るためには、美濃加茂市だけでなく周辺からも来てもらわなければならない。そのため、ファーマーズマーケットをつくる試みを行っている。 ・ 買ってもらうために、安全・安心を徹底した体制づくりを検討している。また、高齢化しているため、担い手をどうするかという問題についても検討している。 ・ 住みよいまちづくりを考える上で、農の果たす役割を定住自立圏に活かさないかということで検討している。 ・ つくったものが売れてこそ農業が続くので、ファーマーズマーケットや大型直売店を美濃加茂につくろうという結論で話を進めている。
高井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回は1市と1町の協定であるが、美濃加茂市の周辺には、坂祝町の他に、富加町などいくつかの町村がある。他の町村とも同じような議論をして協定を進めていくのか疑問に思う。 ・ 出ている案は、医療、福祉、道路整備などのあらゆる分野でスケールメリット的なことが多いと思う。1市1町で先行して、そこにお金が投資されるのは本当によいのか。 ・ それから、選択と集中はどのようにするのか。たくさんを同時進行するのか。中でも焦眉の的は何か。 ・ 美濃加茂市と坂祝町の土地利用を考え、どこに住宅があり、どこに工場があり、どこに医療機関があるかなど、きちんと位置づけた上で、定住自立圏の計画ができていくのだと思う。
渡辺市長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の定住自立圏はあくまで中心地と周りの1対1で案をつくるという

宮口経営企画部長

形式である。

- スケールメリットを追求していけば、合併が一番よいということになるが、この懇談会では、そういう話ではない前提でないと進んでいかないかと思う。
- 選択と集中についてもおっしゃる通りだと思うが、町村によって抱えている課題が違うので、何を選択するかということは、美濃加茂市が決めるとはなくて、それぞれの町で決めていかなければならない。そこで初めてお互いの立場を認め合って、進めていく。
- 美濃加茂市と坂祝町が持っているそれぞれの強みをお互いに活かして集約し、ネットワーク化しようということが定住自立圏構想の一番の要になっているのだと思う。

高井委員	<ul style="list-style-type: none"> 最初に美濃加茂市と坂祝町の1市1町で協定を結んで、機能を決めてモデルとし、次のステップで他の市町村と美濃加茂市が同じような定住圏構想を進めるということか。
宮口経営企画部長	<ul style="list-style-type: none"> 例えば、坂祝町と富加町では課題が異なるため、ある意味ではモデルであるようでモデルではない。 何を一緒にやっていくかについては、お互いに話し合うことで、美濃加茂市の中心市としての役割を果たしていくことになる。
細川アドバイザー	<ul style="list-style-type: none"> まずは美濃加茂市を中心とする定住圏全体が「何を目指しているのか、何が強みなのか、何で勝負するのか」があり、大きな名古屋経済圏の中で、美濃加茂市を中心とする定住自立圏がどこで強みを発揮するかを明確にする必要がある。その結果、美濃加茂市と坂祝町の役割分担が出てくる。 目指す姿や強みが欠落したまま各論のメニューだけが出ているため、モデルになるのではないかという議論が出てくる。 絞るときには、関係する町村がみんな一緒になって、圏域で目指していくことをやらなければならない。坂祝町とだけではだめだと思う。 名古屋経済圏という大きな視点の中で我々の定住自立圏が何を目指すか明らかにし、その後に美濃加茂市と坂祝町の役割分担の話が出てくる。そこの整理がされていない感じがする。
小笠原委員	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化や人口構成の変化などにより、20年後には、合併や協定以前の問題で、美濃加茂が中心となった自治体として生き抜いていかなければならない時代になってくる。定住自立圏は、20年後のこの地域の形をつくるものだと思う。 各地域の資源を地元の目玉としてどうやって使っていくかを考えなければならない。 太田地区を含む美濃加茂の地域は、川の恩恵を受けてきた。先ほど出てきた話を含め、山や川をどうやって意識していくか、定住自立圏の中で関わっていい話かもしれない。 戦略的な投資や資源の集中、将来の環境を予想するなど、重厚な企画でないと定住自立圏は完結しない気がする。 20年後の人口の状態などを見据えた資源の使い方をしなくてはいけないという危機感を、周辺自治体にも提示した方がよい。

<p>則竹委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「あい愛バス」は採算がとれるわけでもないし、便利なものでもない。みんなの意見を取り入れているからである。 ・ 市は「最大多数の最大幸福」をまず優先して、次に少数の方をどうしたら助けられるかを考えていくべきである。 ・ 朝出勤するときに、自分より若い人が朝から碁を打って、遊んでいるのを見る。働けと言いたい。そういうことを言うと働く場所がないと言う。 ・ 過疎のところであっても、一人ひとりが働いて稼ぐことを考えてもらいたいし、そういうことをできるように仕向けないといけない。 ・ 住みよいまち、場所は人によって千差万別だと思う。一番大切なのは、経済的に自立できるかどうかである。 ・ 地域ごとにある立派な特産品を名古屋のアンテナショップや農協のファーマーズマーケットで売ってもいい。大々的に宣伝すれば、過疎地域でも自立できるし、自立できるようなお金になれば若者も戻ってくる。 ・ もっと地元の市民が働くように、発破をかけていただきたい。
<p>山田座長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本は結局、豊か過ぎる。豊かであっても豊かでないと思っている。それと、すべての人が豊かにならなければならないという社会的思想がある。 ・ 最近、知事や市長が自分のまちの物を売ろうとする動きがある。売ろうとすることは経済を発展させることであるが、売るのが物ばかりである。 ・ 知識や技能、文化といった無形のもの売り込むことも必要である。
<p>細川アドバイザー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定住自立圏で大事なものは、名古屋の需要を取り込むことである。 ・ 例えば、地産地消といっても、この地域だけでなく、名古屋経済圏という大きな土俵の中で考えればいろいろなメニューが出てくる。 ・ 大変おもしろい事業を提案いただいているが、例えば「農村体験」というのもこの地域だけを対象とするのではなく、名古屋の小学生など、都会の子がここで農村体験をすることが考えられる。 ・ 地域を狭く考えるのではなく、名古屋の需要を取り込んでここの活力にするにはどうしたらよいかという切り口でアイデアを見ると、広がりが出てくるのではないか。 ・ 提案の中には、海外の話も出ている。例えば福岡の「あまおう（イチゴ）」や佐賀の「佐賀ほのか（イチゴ）」は上海など中国の富裕層ねらいである。販路を具体的に考えていく必要がある。 ・ 他にも、スポーツや禅など、いろいろな着想で事業が提案されているが、この定住自立圏をどういったもので生み出すか、ブランド化して共通項で物事を見ていく必要がある。このような思考のプロセスを大切にしたい。

大野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私は岐阜で生まれ、いろいろなところに住んできた。振り返ると、それぞれのまちにいろいろな特色があり、美濃加茂も大変いいところである。 ・ 計画書を見ると、非常にいろいろなアイデアが盛り込まれている。きちんと整理した上で進めないと、おそらく何も実現せずに終わってしまうのではないかという気がする。 ・ これだけの項目が挙がっているので、それぞれの実現可能性、費用の問題、今取り組まれているもの、全く実現可能性のないものなど、そういう整理はできると思う。それから、日にちのかかるものやお金のかかるものを考え、その中から優先順位をとっていくと、より実現性の高い計画になって、実行に移せるものになっていくと思う。 ・ 計画自体も、直近の短期計画、中期計画、長期計画という識別が必要になってくるのではないか。
市橋委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市のパワーで何が問題かという「インビジブル・ファミリー（見えない大家族）」である。新しい消費の形にもつながるが、3世代が近くに住んでいるということが理想的な条件である。そうすると、先ほど話があった「安全・安心」や「働く場所」がテーマになってくると思う。 ・ 美濃加茂の売りは何かということになると、大きな山・川などの環境が整っていることだと思う。そのため、1つの視点として自然との共生がある。 ・ 「働く場所」ということに視点を戻し、我々のグループ会社を例にした場合、販路や販売チャネルの拡大などを総合的に見ると、名古屋圏・中京圏で何をつくって、何を売っていくかということが整理される。 ・ お盆や正月に帰ってくる人をみると、働く場所がないと痛切に思う。
渡辺委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選択と集中や高速道路の問題について把握していただいた。検討する時間や余裕があるため、いいものにしていけないのではないかと思う。 ・ 県が民間の投資に対して助成する、民間投資プログラムがある。この採択に向けて動いている。 ・ 山の問題は非常に難しいが、重要な問題だと思う。 ・ 何が売るか、何が強みかという中で、医療の問題が非常に重要だと思う。 ・ 美濃加茂市は医療関係で大変恵まれている面があるが、それでもこの地域は医者が足りないという現状がある。診療所などを充実させていくことが1つの選択になると思う。 ・ ブラジル人の高校進学率を上げることも、美濃加茂と坂祝では施策を実現していくことができるのではないか。 ・ いろいろな事業や政策を発想するにあたり、情報収集が必要である。人材育成を1つの力にするのはありかと思う。

佐野委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 森の整備には雇用の問題がついていることを申し忘れた。 ・ 畑のできる人、力仕事のできる人、木の切れる人、そういう人材を育てていって、雇用の拡大をしていただきたい。
青柳委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を読むと、本当に今必要なことから夢のような話までいろいろ出ている。難易度や政策の優先度、期間、費用を勘案する中で、定住自立圏の形成に本当に適切なのか、役に立つものなのかについて選択と集中をしていったらいいかと思う。 ・ 企業は10年、20年も先のことを考えていない。今すぐできることをやっていけば、他の富加町などの近隣町村の方も参加できる形になってくると思う。 ・ 大切なのは、生活機能の強化と近隣の町村との結びつきである。
高井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民参加など、いろいろなまちづくりのプランニングの初めの段階から市民の意向をできるだけ聞いて、市民でできることは市民でやってもらうというのが今の時代の流れであると思う。 ・ この定住自立圏の策定と推進にあたって、そういう市民の意向はどういう形で取り入れていくのか。
宮口経営企画部長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定住自立圏構想の考え方ということについて、市の広報等で何度か特集した。 ・ 根底から新しく事業を立ち上げるというより、現在行っている事業の取り組み方や考え方を変えて、効果を上げようとしている。 ・ 行政だけでなく民間も含める形で定住自立圏構想が出されているので、そういった意味の市民参加なり、協働なりを、ネットワークで結びつけて支えていこうとしている。 <p>5 その他 (事務局から今後のスケジュールを説明、市長から御礼の挨拶)</p> <p>閉会</p>
7 会議資料	<ol style="list-style-type: none"> 1 美濃加茂市・坂祝町定住自立圏構想アクションプラン検討WG会議におけるアイデア一覧 2 美濃加茂市・坂祝町定住自立圏形成協定の概要 3 定住自立圏の形成に関する協定書（案）